

土岐氏の史跡をめぐる

2017.01.14
草 雲

[1] 大富館跡 (館)

場 所：岐阜県土岐市泉大島町

築城年：1057年（平安時代）

館 主：源頼国

備 考：鎮守府将軍・源頼光の子頼国が1057年に大富の里に住んでから、この地が284年の長い間土岐氏の拠点となった。

この石碑は屋敷の西北角で、東南へ、それぞれ300m広がる正方形の敷地であった。

大富館跡の石碑は公園に建立されていて、「伍所公園」と呼ばれている。

石碑には「美濃国土岐源氏発祥地」と刻まれている。



【大富館跡の石碑】



【大富館の堀の役割をした土岐川】

[2] 一日市場館跡 (ひといちばやかたあと) (館)

場 所：岐阜県瑞浪市土岐町

築城年：1201～1204年（鎌倉時代）

館 主：土岐満衡（源頼国の5世孫）

備 考：頼国の五世孫満衡は1189年源頼朝より美濃国守護に任じられ、一日市場館に移り土岐氏を号した。



【一日市場館跡】



【一日市場館跡に残る土塁】

土岐氏の史跡をめぐる

2017.01.14
草 雲

【3】浅野館跡（館）

場 所：岐阜県土岐市肥田町浅野笠神町2～3丁目
築城年：1221年頃（鎌倉時代）
館 主：土岐光行（土岐満衡の子）、土岐光定（土岐光行の子）
備 考：土岐光衡の子光行、その子光定の二代は大富館の土岐川対岸に館を構え移住した。光行は「承久の変（1221）」に後鳥羽上皇の京方として一軍を率いて参戦したが大敗。断罪は免がれたが美濃国守護職を失った。



【浅野館跡】



【浅野館の堀の役割をした土岐川】

【4】大富館跡（館）

場 所：岐阜県土岐市泉大島町
築城年：1057年
館 主：美濃守護・土岐頼貞、美濃守護・土岐頼遠
備 考：光定の子頼貞は美濃国守護職となり、再び大富館に住んだ。
正中の変の時、後醍醐天皇の密使をおびた日野資朝卿がこの大富館で頼貞と共に、夜を通して討幕の密計を立てた所である。
大富館跡の石碑は公園に建立されていて、「伍所公園」と呼ばれている。
石碑には「美濃国土岐源氏発祥地」と刻まれている。



【大富館跡の石碑】



【大富館跡の伍所公園】

土岐氏の史跡をめぐる

2017.01.14
草 雲

【5】長森城跡（平城）

場 所：岐阜県岐阜市切通6丁目

築城年：1185年（地頭・渋谷金丸王）（鎌倉時代）

城 主：美濃守護・土岐頼遠、美濃-尾張-伊勢守護・土岐頼康

備 考：1339年、美濃守護・土岐頼遠（頼貞の子）は、東濃では美濃国統治が不便なため、大富館から長森城に移った。頼遠は北朝方に属し数々の戦功があったが、光厳天皇への不敬の罪により刑死した。
長森城廃城後は同じ地に切通陣屋が築かれた。



【長森城跡の切通陣屋跡】



【切通陣屋跡の石碑】

【6】川手城跡（平城）

場 所：岐阜県岐阜市正法寺町（済美高校）

築城年：1353年（室町時代）年

城 主：美濃-尾張-伊勢守護 第3代守護職/土岐頼康～第11代守護職/土岐頼芸

備 考：1353年、土岐頼康は手狭になった長森城から川手城に移った。
1467年、応仁の乱により都から逃げ延びた公家たちは、土岐氏を頼り、川手に移住した。これにより、川手の地は都文化（詩歌、蹴鞠、能楽など）の花を咲かせることになった。「西の山口（大内氏）、東の川手（土岐氏）」と言われた。

川手城跡の石碑には「史跡 川手城跡」と刻まれている。



【川手城跡の石碑】



【川手城跡の側を流れる新荒田川】

土岐氏の史跡をめぐる

2017.01.15
草 雲

[7] 福光城跡 (平城)

場 所：岐阜県岐阜市長良福光

築城年：1509年(室町時代)

城 主：美濃守護・土岐政房

備 考：それまでの美濃の中心は川手城に置かれていたが、福光城築城により、守護所の機能は長良川を越え、現在の長良川スポーツプラザ付近に移った。土岐政房の長男政頼は弟の頼芸と家督争いをしたが、朝倉氏の武力援助を受けた政頼が家督を継承した。しかし、政房没後の1525年に頼芸が挙兵、福光城を武力占拠し、政頼を追放した。家督を奪い取った頼芸は1532年に枝広館に移ったため、福光城は短命に終わった。



【福光城跡の蟬丸公園】



【福光城跡から金華山を望む】

[8] 枝広館跡 (館)

場 所：岐阜県岐阜市長良

築城年：1532年(室町時代)

城 主：美濃守護・土岐頼芸

備 考：政房没後の1525年に頼芸が挙兵、福光城を武力占拠し、政頼を追放した。家督を奪い取った頼芸は1532年に枝広館に移った。1535年の長良川の大洪水によって枝広館は壊滅的な被害を受けて廃城となった。



【枝広館跡から金華山を望む】



【枝広館跡の岐阜公園】

土岐氏の史跡をめぐる

2017.01.15
草雲

【9】鷺山城跡（山城）

場 所：岐阜県岐阜市鷺山
築城年：1185年－1190年（鎌倉時代）
城 主：土岐政頼、土岐頼芸、齋藤道三
備 考：1525年に政頼の弟・土岐頼芸が鷺山城を占拠したが、翌年迄に政頼は鷺山城を奪い返した。この戦いは1530年まで続いたが、長井長弘や齋藤道三の父に支援された頼芸が勝利した。政頼は大桑城へ入った。
1532年に頼芸は鷺山城から枝広館に移った。また、1535年、齋藤道三と小見の方との間に濃姫が生まれた。1548年、道三は家督を息子の齋藤義龍に譲ると鷺山城に隠居した。1549年、濃姫は鷺山城から尾張国の織田信長に嫁いたので、「鷺山殿」と呼ばれた。



【山頂の鷺山城跡】



【鷺山城跡から岐阜城を望む】

【10】大桑城跡（山城）

場 所：岐阜県山県市大桑洞（古城山）
築城年：1250年（鎌倉時代）
城 主：大桑又三郎、土岐政頼、土岐頼芸
備 考：1535年に長良川の洪水が守護館の枝広館を襲った。土岐氏最後の美濃守護の頼芸は大桑城へ移った。1543年に齋藤道三は大桑城を攻めた。朝倉氏や織田氏の仲介で和議が成立するが、1552年に再度道三が攻めて、頼芸が退去し土岐氏は滅亡、大桑城は廃城となった。

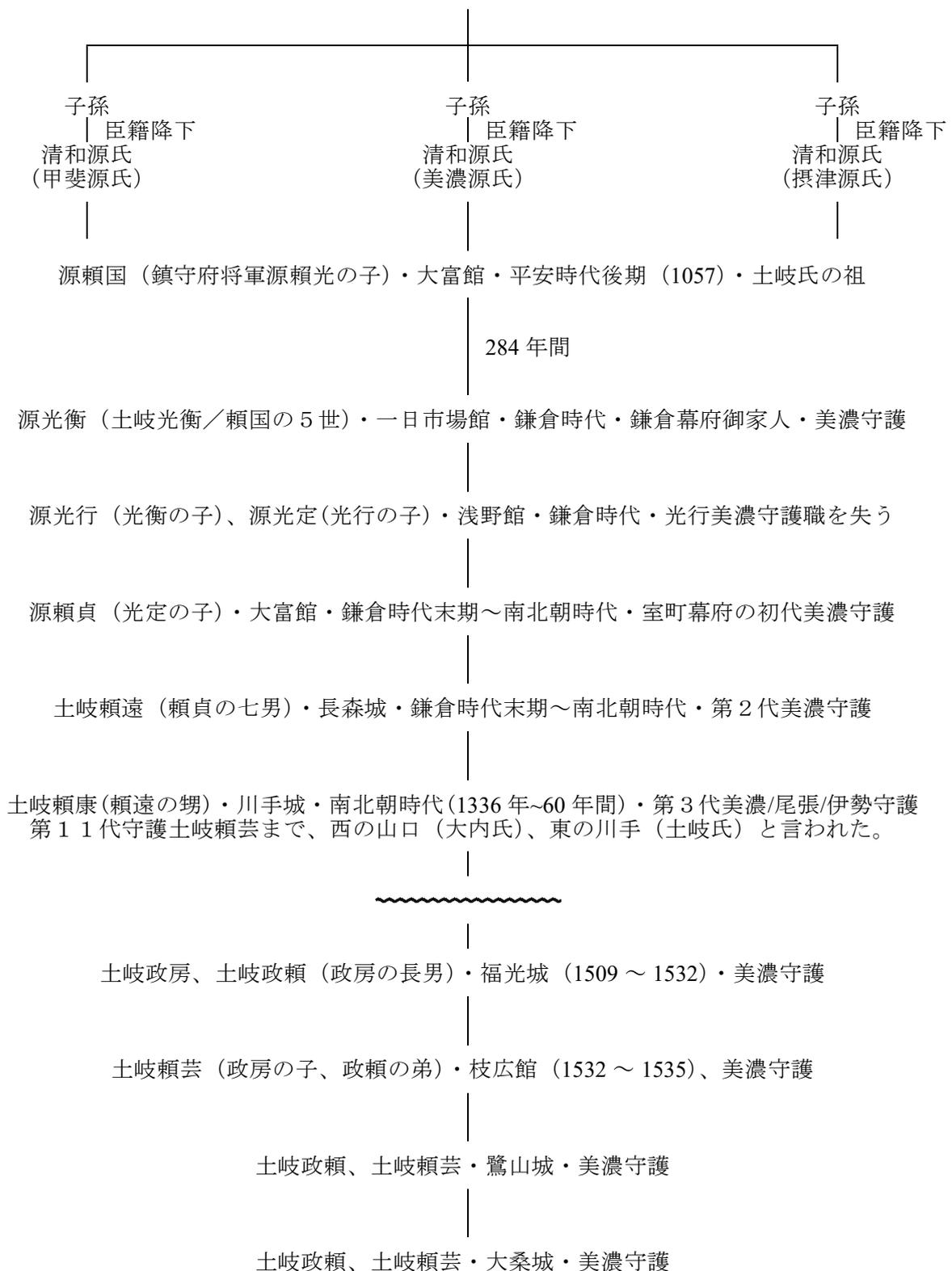


【大桑城本丸跡からの展望】



【大桑城跡の古城山を望む】

清和天皇
(平安前期 第56代天皇)



臣籍降下 …… 皇族の身分を失い人民になること。

鎮守府将軍 …… 奈良時代から平安時代にかけて陸奥国に置かれた軍政府である鎮守府の長官

陸奥国 …… 現在の福島県、宮城県、岩手県、青森県